

- ・論文：20,000字
- ・研究ノート：8,000～12,000字
- ・フィールドワーク報告：3,200～12,000字
- ・特集（エッセイ）：4,000～6,000字
- ・書評：2,000～3,200字
- ・他のジャンル（例、資料など）は編集委員会にエントリー時に申し出ること。

## 2. 要約とキーワード

論文には、500～800字程度の要約をつけ、要約の末尾に、3～5語のキーワードを明記する。なお、論文については、著者の希望によって末尾に英文要約+キーワードをつけることができる。

## 3. 書式

論文は、表題・執筆者氏名・和文要約・キーワード・本文・注・引用（参考）文献・図表・（ひらがな氏名 所属）の順で構成する。

## 4. 表記法

- (1) 固有名詞（匿名化された語り手など）のアルファベット表記は、全角文字。他の英字や数字は、原則として半角文字。本文中の「。」、「,」、「[ ]」、「( )」、「〈 〉」などの記号は全角文字。
- (2) 節は全角文字（1 見出し）、項は半角数字（1.1 小見出し）、項以下は半角の(1)(2)・・・を用いる。
- (3) 年号は、原則として西暦を用いる。元号表記には「2015（平成27）年」と記す。

## 5. 文献引用と注

- (1) 引用文献は、本文中の引用、参照個所の最後に（桜井2002：15）のように、「（著者姓 発行年：引用頁）」となる。
- (2) 注は、本文該当箇所の語句のあとに（右肩ではなく）、1）、2）のように片括弧の半角で記し、本文の最後にまとめて記載する。
- (3) 末尾の文献リストはアルファベット順で記載する。
- (4) 和文文献の句読点は全角の「,」「.」を用いる。和文文献は、著者名、出版年、書名、出版社名の順に表記する。翻訳文献は、著者名をカタカナ名として、あとは和文文献に準じる。なお、原書を記したいときは翻訳文献を記載したあとに（ ）内に欧文文献に準じて記載する。
- (5) 欧文文献は、句読点をはじめ著者名などすべて半角で表記する。書名、雑誌名はイタリック体とする。

## 【例】

桜井厚, 2002『インタビューの社会学——ライフストーリーの聞き方』せりか書房。

岸衛, 2014『災害の記憶を語り継ぐ——『伊那谷三六災害』アーカイブ化の試み』『龍谷大学社会学部紀要』44号：100-113。

西倉実季, 2018『なぜ演じるのか——フィクションに託すサファリングの語り』小林多寿子・浅野智彦（編）『自己語りの社会学——ライフストーリー——問題経験・当事者研究』新曜社：30-56。

クラブバンザーノ, V., 1991『精霊と結婚した男——モロッコ人トウハーマミの肖像』（大塚和夫・波部重行訳）紀伊国屋書店。  
 (Crapanzano, Vincent, 1980, *Tuhami: Portrait of a Moroccan*, The Univ. of Chicago.)

Bertaux, D.& Kohli, M., 1984, "The Life Story Approach: A Continental View", *Annual Review of Sociology*, vol.10: 215-237.

Roberts, Brian, 2002, *Biographical Research*, Open University Press.